

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 楊梅 幼稚園）

教育目標

「かかわりを楽しみ、よりよい生活を創り出す子ども」の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月21日	学校運営協議会
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・全教職員でのチーム保育により、子どもの育ちと安全、安心を保証する。
- ・基本的生活習慣の確立に向け、環境を整え、家庭との連携を図る。
- ・人権尊重を基盤にした互いのよさを認める集団作りを進める。
- ・子どもの背景をしっかりと見取り、幼稚園全体で共有し取り組むとともに、関係機関との連携を進める。
- ・子どもたちが夢中になって遊ぶことができる魅力的な環境を計画的に構成する。
- ・友達と一緒に、よりよい考えを十分に試し工夫することができる遊びを子どもと共に創る。
- ・積極的な校種間連携・接続で教育の質的向上を図る。
- ・架け橋プログラムの取組を推進する。
- ・地域の実態やニーズに合った子育て支援に努める。

(取組結果を検証する) 各種指標

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすい」

中間評価

各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価している。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.4%

- ・設問「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96.6%

- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 93.3%

- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 88.4%

- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすい」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.3%

自己評価

分析(成果と課題)

保護者アンケートにおいて、概ね教育目標を達成していると考えられる。チーム保育により子どもの育ちや安全を見守る体制づくりや、子どもたちが夢中になって遊ぶ環境づくりの工夫をしてきた。保護者にも日々の幼稚園で過ごす子どもの姿から、幼稚園で大切にしていることや教育目標を理解し、協力しようとしていることが結果からも伺える。身辺自立の課題については、保護者と連携をし、丁寧に支援していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

今後も、季節に応じた環境や子どもの育ちにつながるような環境構成や援助を見直していくたい。支援の必要な園児も多くいる中で、教職員全体で見守る体制を引き続き構築していくたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

保護者アンケートを実施する

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

運動会で子どもたちが楽しく体を動かしたり、その姿を保護者が温かい声援や拍手を送ったりして、みんなが運動会を楽しんでいる姿が見られ、幼稚園に安心して預けていることが感じられた。身辺自立については、自分でできることができることが自信になるため、丁寧に関わる援助ができたらしいと思う。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価 学校 関係者 評価	分析を踏まえた取組の改善 学校関係者による意見・支援策
-----------------------	------------------------------------

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組

- 下京雅小学校との合同研究組織において研究を推進する。研究保育、研究授業、エピソード研修、合同研修会などを実施する。架け橋プログラム研究ブロックの園としての取組を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

保護者アンケートの評価項目

- 「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果

- 設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96. 6%

自己評価	<h3>分析（成果と課題）</h3> <p>保護者アンケートから、子どもたちは人との関わりや触れ合いを楽しんでいることが分かる。同敷地内にある小学校を身近に感じ、日ごとの自然な交流により園児にとって小学生は親しみのある存在となっている。このような小学生との交流や教職員同士の連携が子どものよりよい育ちにつながっている。交流をする際は、お互いのねらいを共有し、互恵性のある活動内容になるよう話し合うことを大切にしていきたい。</p>
------	---

分析を踏まえた取組の改善

交流活動が互いに意義のある活動となるよう、事前にねらいや内容を話し合っていく。また、交流での子どもの姿を共有し、よりよい架け橋期の教育を目指す。また、後期には地域の就学前施設との交流も計画しているため、よりよい交流となるよう教師同士での話し合いをしていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 公開保育他、研究発表会の実施
- 交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り

学校 関係者 評価	<h3>学校関係者による意見・支援策</h3> <p>下京雅学区の子どもたちはこちらが挨拶する前にも進んで挨拶をする。大人に対しての安心感、親しみがあり、とても気持ちがよい。これは小学校と幼稚園との交流が盛んに行われており、異年齢で交流することの喜びを感じているからなのだろう。地域としても幼小連携を応援したい。</p>
-----------------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（3）預かり保育に関して

具体的な取組
・幼児の心身の負担に配慮し、1日の幼稚園生活を見通し、心と体を落ち着けて遊ぶことができる環境の設定や人員配置を行う。
（取組結果を検証する）各種指標
保護者アンケート評価項目 「安心して子どもを預かり保育に参加させている」

中間評価

自己評価	各種指標結果
	・設問「保護者は安心して子供を預かり保育に参加させていますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」86.7%
	分析（成果と課題） 参加させている保護者は、安心して参加させていることが分かる。利用者も多く、子育て支援としての役割を果たし、有効に活用されていると思われる。 分析を踏まえた取組の改善 特別に支援の必要な園児も多く利用しているため、担当教員と連携を密にとり、園児が安心して参加できるようにする。 (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 預かり保育参加者数や参加者の感想等から検証する
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 引き続き、子育て支援としての役割を担い、安心して利用できるように努めてほしい。

最終評価

自己	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- 保護者や未就園児の様子を温かく見守り、声をかけて相談に応じたり、保護者同士をつないだりし安心感につなげる。
- 未就園児を対象に季節の行事や遊びなど魅力的な活動を行う。
- 満3歳児や2歳児、地域の諸規模保育園児が安心して幼稚園での遊びを楽しむことができる場を提供する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 未就園クラスの取組の内容と参加の保護者の様子、人数、日数

中間評価

各種指標結果

ホームページやSNSなどで、教育相談を知ったり、自園の教育について知ったりし、登録者数も少しずつ増えている。

自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>参加している保護者同士が子育てについて語り合う場があることで安心している様子が伺われる。活動場所が幼稚園遊戯室の日と小学校地域交流室の日があり、小学校の日の利用は減少してしまう。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小学校での活動の日でも玩具等の子どもがやりたくなるような環境を工夫し、子どもも遊びたくなる場所、保護者もほっこりして語り合える場所となるようにしていきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせや入園につながったかを確認する。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域も連携しながら進めていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
----	-----------------------------

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 参観や懇談の機会を増やし、家庭との連携をはかるとともに幼児の発達や幼稚園教育への理解を深めることができるようする。 地域の伝統文化（葵祭、祇園祭、扇子の絵付け体験）に触れる機会をつくる。
(取組結果を検証する) 各種指標
<input type="radio"/> 保護者アンケートの評価項目 <ul style="list-style-type: none"> 「子どもはいろいろなものやこと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> 設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」 <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96. 6%</p>
分析（成果と課題）
<ul style="list-style-type: none"> SNS やホームページ、地域だより（楊梅だより）の発信により、広く幼稚園について発信している。更新頻度が高いこともあり、自園の雰囲気や教育についての発信となっている。 5歳児が地域の伝統文化に触れる体験ができ、その後の遊びや生活の充実につながった。家庭ではできない体験をすることができ、保護者も喜んでいる。
分析を踏まえた取組の改善
地域の子育て支援施設の拠点として、小学校や地域の就学前施設、地域全体をつなぐ役割を担っていく。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
保護者アンケートの実施
学校関係者による意見・支援策
子どもたちや保護者にとって、幼稚園も含め地域全体が安心できる場、子育てがしやすい場となるよう、地域も協力していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の多様な働き方、職種や世代の違いなど、意識改革を進める。 会議の効率化、校務支援員との連携、行事などの役割分担など、日々の業務を見直し改善する。 長期休業中の年休取得日を増やす。
(取組結果を検証する) 各種指標	<input type="radio"/> 長時間勤務の時間数 <input type="radio"/> 年休取得日数

中間評価

自己評価	<p>各種指標結果</p> <p>長時間勤務の時間数は減少し、年休取得日数も増加している。</p> <p>分析 (成果と課題)</p> <p>働き方改革の意識が定着してきており、ICT 機器を活用や校務支援員との連携、活用により事務の効率化が図られている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>見通しをもって保育や研修の準備をすることで、より効率的に時間を使うようにしたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>長時間勤務の時間数と年休取得日数</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>仕事内容を厳選し量を減らしても、質は向上する、そんな働き方改革ができたら素晴らしいと思う。地域もできることは協力したい。</p>

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
------	---

